

日立市生涯学習振興計画(素案)
(2024~2028)

日立市教育委員会

目 次

第1章 計画の策定に当たって	1
1 策定の趣旨.....	2
2 計画の位置付け.....	2
3 計画の期間及び進行管理	3
第2章 生涯学習を取り巻く現状と これまでの取組状況	5
1 生涯学習の定義.....	6
2 生涯学習を取り巻く社会情勢	6
3 国における教育政策の動向	8
4 本市における取組の状況	9
第3章 計画の基本的な考え方	13
1 計画の基本理念.....	14
2 計画の特徴.....	14
視点1 ライフステージ	15
視点2 誰一人取り残さない（SDGsの方向性との合致）	16
視点3 デジタル化	17
視点4 リカレント教育	18
第4章 今後5年間で取り組む施策	19
1 施策の体系.....	20
(1) 推進テーマ	21
(2) 施策の柱.....	21
2 施策の展開.....	23
施策の柱Ⅰ きっかけを見つける	25
施策の柱Ⅱ 人生100年時代を豊かに生きる	34
施策の柱Ⅲ 支え合い共に生きる社会を創る	59

第5章 参考資料	73
1 計画策定経過.....	74
2 策定委員会.....	74
(1) 委員名簿.....	74
(2) 設置要領.....	74
3 目標指標一覧.....	74
4 主な取組一覧.....	74
5 意見聴取の結果.....	74

※第4回策定委員会で示す計画の素案は第4章までとなります。

第1章

計画の策定に当たって

1 策定の趣旨

これまで、本市では「日立市教育振興基本計画」（計画期間：2019（令和元）年度～2023（令和5）年度）を基に、様々な教育施策を展開してきました。

日立市教育振興基本計画の期間が終了するに当たり、急速な情報化や技術革新、グローバル化など社会経済情勢の変化を始め、「学校教育」、「生涯学習」、「スポーツ」の分野ごとに課題やニーズが広範化かつ多様化していることを踏まえ、効果的な施策形成を図るため、1つの計画にまとめていた3分野をそれぞれ個別の計画として策定することとしました。

2 計画の位置付け

(1) 法的な位置付け

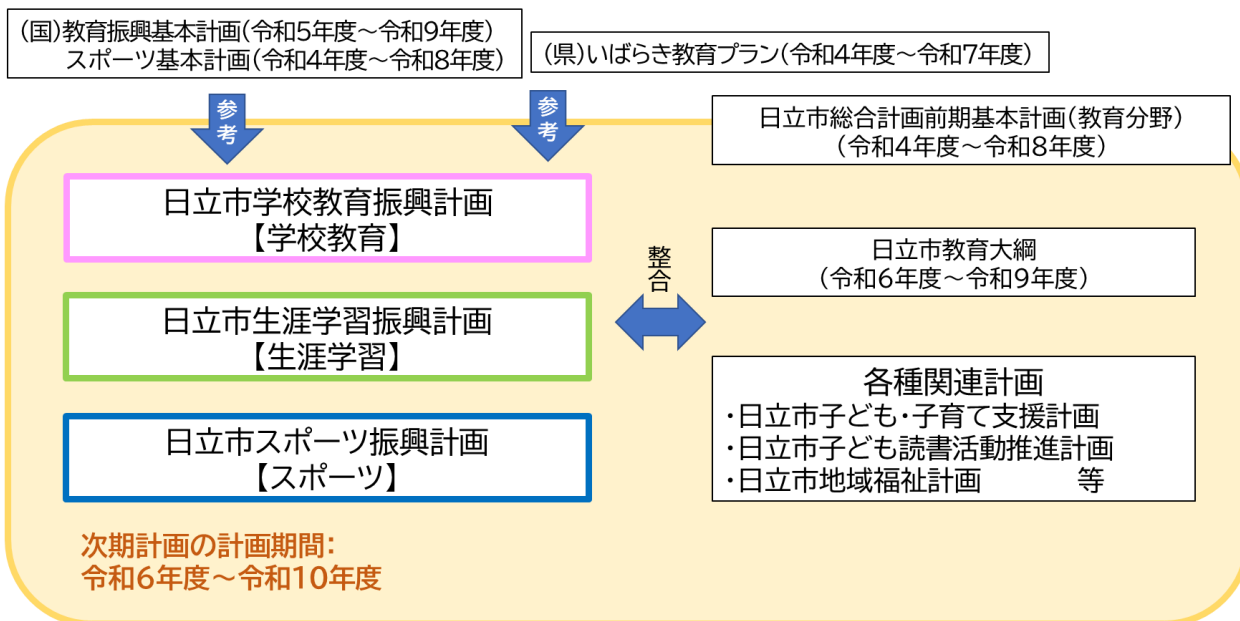
本計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づく「地方公共団体における教育の振興のための基本的な計画」として策定します。

(2) 上位計画との関係

ア 本計画は、国の「第4期教育振興基本計画」（計画期間：2023（令和5）年度～2027（令和9）年度）、県の「いばらき教育プラン」（計画期間：2022（令和4）年度～2025（令和7）年度）及び本市の各種関連計画と調和の取れた計画として策定します。

イ また、本市の教育が目指す基本的な考え方を示した「日立市教育大綱」（計画期間：2023（令和5）年度～2027（令和9）年度）や上位計画である「日立市総合計画前期基本計画」（計画期間：2022（令和4）年度～2026（令和8）年度）に示す生涯学習に関する施策をより具体的に推進する計画として策定します。

ウ なお、生涯学習に関する施策については、「福祉」や「子育て」、「環境」などの様々な分野における、意識啓発事業や市民参画事業などの学習活動に関する各種施策も策定範囲とし、生涯学習の視点から、体系化を行います。



3 計画の期間及び進行管理

本計画の期間は、2024（令和6）年度から 2028（令和10）年度までの5年間とします。

施策の進行管理については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づいて実施する「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を活用しながら、より効果的な施策を推進していきます。

第2章

生涯学習を取り巻く現状と これまでの取組状況

1 生涯学習の定義

教育基本法では、生涯学習の理念について「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」としています。

「生涯学習」という言葉は、余暇・レクリエーション活動や趣味・教養に関わる活動と捉えられがちですが、実際にはこれらの活動だけではなく、生涯にわたるあらゆる学習活動を含む広範な概念です。

そこで「日立市生涯学習振興計画」では、「生涯学習」の定義を、個人の自発的な学習はもちろんのこと、学校教育、社会教育、家庭教育のほか、スポーツ・レクリエーション活動、文化芸術活動、ボランティア活動、職業上必要な技能の習得など、学習を伴う幅広い活動として捉え、市民一人一人が生涯にわたり、あらゆる機会に、あらゆる場所において主体的に行う、あらゆる学習の活動の総称とします。

2 生涯学習を取り巻く社会情勢

(1) 世帯構成・ライフスタイルの変化

人口減少、少子高齢化、核家族化、未婚化・晩婚化を背景に、社会環境の劇的な変化が進み、地域社会を支える地縁など、対面での人と人との関係性や「つながり」は希薄化しています。さらに、インターネットの普及等に伴う情報通信社会の急速な進展等により、国民の生活環境やライフスタイルは急速に変化してきています。

また、インターネットやソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の利用拡大により、市民レベルでの情報の受発信が活発になっており、様々な情報が容易に入手可能になる一方で、情報に市民一人一人が当事者として対応せざるを得ない状況も生じています。こうした環境の変化を踏まえ、日常生活を送る上で必要な基本的知識やスキルとして、情報活用能力の育成や、メールやインターネットを安全に活用する際の正しい知識と対策やスキルを身に付けることが重要です。

(2) 誰一人取り残さない（社会的包摂）

2015（平成15）年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ（計画）」には、持続可能な開発目標（SDGs）として17のゴール、169のターゲットから構成される国際目標が掲げられています。

その目標4では、「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことが挙げられています。

また、前文においては、「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女兒の能力強化を達成することを目指す」ことが記載されています。

生涯学習を基盤として、持続可能で安心・安全に暮らせる社会を実現していくためには、貧困の状況にあり、孤立しがちな子ども、外国人、障害のある方やその家族など、困難な立場に置かれている人々の社会的包摂の実現を推進することが必要です。

(3) 人生100年時代における学習の重要性

変化の著しい現代社会に対応するため、社会人の学び直しを始めとする生涯学習の必要性が増大しています。人生100年時代には、高齢者から若者まで、全ての人に活躍の場があり、元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会を創る必要があります。特に、社会的な課題の解決に向けて生活基盤を確かなものとする上で「学校教育以外の学び」の重要性が再認識されています。

(4) 生涯学習につながる学校教育、学校と地域の連携

学習指導要領では、子どもたちが、変化の激しい時代の中でも、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「どのように学ぶか」という学びの質を重視してい

ます。

これからの時代に求められる教育を実現していくためには、学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくことが重要です。

(5) 地域コミュニティの活動と生涯学習の連携

教育分野以外にも目を向ければ、人々の生活基盤である「地域コミュニティ」が実践する福祉や防災等の活動と生涯学習の連携を深めることが重要です。

こうした生涯学習との連携・協働が求められている現況下では、地域住民による学びの成果を地域課題の解決やまちづくり等につなげていくことができる人材の育成が求められています。

(6) デジタル技術を活用した学習の重要性

学習活動に関するデジタル化・オンライン化の取組は、新型コロナウイルス感染症対策の一環として進んできましたが、こうした取組の進展により、空間・時間に係る制限なく教育を受けることができ、対人コミュニケーションに課題を有する人にとっても学びやすい環境を提供することができるようになっていきます。

生涯学習において、対面・集合形式の学習活動を補うものとして、最新のデジタル技術を活用することは、生涯学習の機会と裾野を広げ、今後の生涯学習の姿に大きな変化をもたらす可能性があります。

3 国における教育政策の動向

2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までを計画期間とする「第4期教育振興基本計画」が策定されました。

コンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げ、5つの基本の方針が示されています。

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

4 本市における取組の状況

(1) 未来を拓くプロジェクトの推進

本市では、これまでの計画期間（2019（令和元）年度～2023（令和5）年度）において、基本理念である「未来を拓く人づくり」の実現に向けて、重点的に推進する主な取組を「未来を拓くプロジェクト」として位置付け、展開してきました。

ア 教育環境の向上

これからの時代を生きる子どもたちの学びを支えるため、地域学校協働活動を実施し、学校と地域・家庭との連携により子どもたちを育てる取組を推進しています。

イ 放課後や休日の活動環境の充実

核家族化や共働き世帯の増加など、一人で過ごすことの多い子どもが増えていることから、放課後や休日を有意義に活動できる安全・安心な居場所や地域の大人と触れ合える環境を整備しています。

全ての子どもたちが安全・安心に過ごせる環境の整備を図るため、利用ニーズに応えた、放課後児童クラブや放課後子ども教室を開設・運営が図られています。

目標指標としていた「放課後子ども教室の開設数」は、計画どおり増加することができています。

さらに、参加する子どもたちが放課後をより豊かに過ごすことができるよう、体験活動等の充実に努めています。

ウ 文化財の活用

日立風流物（ユネスコ無形文化遺産）や長者山遺跡（国指定史跡）などの本市固有の文化財を活用し、市民の郷土への理解や関心を高めるとともに、文化財の魅力を広く発信しながら、まちのにぎわいづくりと交流人口の拡大を図っています。

具体的には、文化財の保存と活用の推進として、「日立市文化財保存活用地域計画」の推進、日立風流物展示施設等の整備検討、長者山遺跡のガイドツアーを実施したほか、郷土博物館の魅力づくりとして、企画・特別展示、歴史、民俗、地学等の講座・講演会等の開催、ふるさと文化少年団の活動支援に取り組んでいます。

(2) 「ひたちらしさ」をいかした取組の推進

日立市では、海・山の豊かな自然環境や優れた地域資源、特色ある教育施設、そして、先人たちによって築かれてきた独自の文化やコミュニティによるまちづくりなどの「ひたちらしさ」をいかした取組を推進しています。

本市の生涯学習では、「ひたちらしさ」をいかしつつ、市民が生きがいや喜びを見出せるような学習機会の提供と自主的な学習活動を支援するとともに、地域や学校でその成果をいかすことができる機会を創出することで、持続的な地域力の向上に取り組んでいます。

ア 未来の夢を体験する ～職業探検少年団の活動支援～

小中学生の勤労観や職業観を育むため、地域、産業界、行政等が一体となって進めている「日立市職業探検少年団」の運営の支援に取り組んでいます。全国でも珍しい本取組を通し、キャリア教育を推進しています。

イ “ひたち発” ラジオ体操 ～ラジオ体操の普及推進～

本市出身の遠山喜一郎氏が考案したラジオ体操を「郷土の宝」として、市民への普及に取り組み、市民の生活習慣の改善及び健康増進を図るとともに、世代間交流の機会を増やし、地域社会の活性化を目指しています。

ウ 学ぶ意欲に応える ～ひたち生き生き百年塾の活動支援～

市民への生涯学習機会の提供として、市民が自主的に参加して、ひとづくり・まちづくりを実践している「ひたち生き生き百年塾」の活動支援及びコミュニティ等との連携強化に努めています。

エ 身近な場所で読書サービス ～読書活動の推進～

本市では、市内に4つの市立図書館を配し、さらに、茨城県内で導入が少ない移動図書館車による図書の巡回貸出サービスを行い、市民の読書活動を推進しています。

また、ブックスタート事業や電子書籍貸出サービス事業等の実施により、子どもの読書活動の推進及び図書館サービスの向上を目指しています。

第3章

計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念

未来を拓く人づくり

情報技術の急速な進展や人口減少などにより、将来の予測が困難な時代の中で、人生 100 年時代をより豊かに生きるため、生涯にわたって学習し、自己の能力を高め、地域社会や生活上の課題解決のための活動をする人材の育成が求められています。

本市の生涯学習では、市民が、夢や希望を持ち、豊かな人生を送れるよう、家庭・学校・地域等において、生涯にわたり、自ら学習活動やスポーツ・文化活動に取り組み、多様な個性や能力を育む環境を整備します。

また、共に学び、共に支え合い、共に地域を創る環境を整備します。

2 計画の特徴

2023（令和 5）年 6 月に閣議決定された第 3 期教育振興基本計画では、人生 100 年時代を見据え、そして、全ての人のウェルビーイングの実現のため、生涯学び、活動できる環境の整備と、多様な世代への情報提供や学習成果の可視化、仲間とつながりながら学ぶことができる環境の整備を図ることを目標としています。

国の示す方向性や社会情勢等を踏まえ、本計画では、市民が自分自身に向き合い、最適な学びをデザインしていくことで、地域の中で学びの輪が広がり、よりよい地域の共創につながっていくことを目指し、以下の 4 つの視点で学びの環境づくりを推進します。

社会情勢の変化やライフスタイルが多様化する中、誰もが生涯にわたって必要な知識・技能を身に付け、他者と協働しながら、その成果を生活や地域での活動等にかせるよう、人生の場面に応じた学習機会を提供し、全ての市民が自己実現を図り、豊かな人生を送るための学びの環境づくりを推進します。

■職業探検少年団の活動支援

子どもたち一人一人の勤労観、職業観を育てるキャリア教育の一環として、地域や産業界が一体となり、子どもたちが将来、社会人・職業人として自立していくことができるよう、各種の職業を探検（見る・聞く・体験）する少年団活動の運営支援を図る。

■ひたち大好き博士の育成

本市のかけがえのない文化や地域資源について学び、理解を深めることにより、郷土愛を育むとともに、「ふるさと日立」を誇りに思えるような子どもの育成を図る。

■中学生の職場体験活動の推進

中学2年生を対象に、職業生活を実体験できる協力事業所での職場体験活動を3日間実施し、望ましい職業観を始め、他者との関わりや思いやり、社会のルール等を学び、主体的、創造的に生きていくことができる資質や能力を育成する。

■豊かな体験の活動支援

地域の人材や企業等の協力を得て、土曜日や長期休業期間における子どもたちの多様な体験活動の機会を設け、教育支援体制の強化を図り、豊かな心を育むとともに、生きる力を向上させる。

■地域学校協働活動

学校と地域が協働した組織的かつ継続的な体制を確立し、本市における子ども育成環境の充実を図る。

誰一人取り残さない（SDGsの方向性との合致）

人権への配慮を始め、多様な他者を尊重することを含めた自他の適切な関係性の下、それぞれの自己の生き方の充実向上を共に図る共生社会において、社会参画に制限のある高齢者、障害者、女性、外国人、貧困の状況にある子ども、孤独・孤立の状況にある者などを含め、誰一人取り残さない社会の実現に向け、関係機関との連携やICTの活用により、平等に学習機会を得られる環境づくりを推進します。

■放課後児童対策

放課後等に、共働き家庭の児童に対しては適切な遊びや生活の場を提供するとともに、全ての児童に対し安全・安心な居場所を提供し、学習やスポーツ・文化活動、体験・交流活動の充実を図り、健全に成長できる環境を整備する。

■大学等への進学支援

奨学金を利用して大学等を卒業し、市内に居住するなどの要件を満たした方を対象に、奨学金返還金の支援を行うことにより、若者の定住促進や、医療・介護・福祉職の人材確保を図る。

■多文化共生の推進

市民と外国人市民が共に協力して、安心して暮らせるよう、多文化共生の地域づくりを推進するため、多言語での情報提供や、外国人市民に対する総合的な生活支援サービス提供を行う。

■認知症サポーターの養成

認知症高齢者が増加する中、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して生き生きと生活できるよう、地域で支え合う体制の強化を図る。

■家庭教育の推進

教育の原点となる家庭での教育について、子育て世代が安心感と自信を持って家庭教育を施すことができるよう、家庭教育の大切さを啓発するとともに、学びの機会を提供するなど、家庭の教育力の向上を図る。

デジタル化が進展する社会において、デジタルの活用とリアル活動を組み合わせた効果的な学びが展開されるよう、社会教育施設におけるデジタル技術の効果的な活用、デジタル基盤の強化を促進するとともに、誰一人取り残さないデジタル社会の実現を図るため、情報格差の解消など、全ての世代のデジタルリテラシーの向上への環境づくりを推進します。

■ 気象情報活用の充実

自治体で唯一の予報業務をいかし、公害克服の歴史を始め、天気の特徴、防災上の注意点を講座や行政放送で伝えるなど、市民の気象・防災知識の普及に向けた取組を促進する。

■ 子育て支援アプリ

紙の母子手帳を補完するものとして子育て支援アプリを提供し、市民の利便性向上を図る。

■ 電子書籍貸出サービス活用による読書活動の推進

普段図書館に来館できない社会人、介護や子育て中の方、障害を持つ方等が、来館せず「いつでも、どこでも、だれでも利用できる読書環境」を提供し、図書館サービスのユニバーサル化を図る。

■ 博物館の魅力づくり

限られたスペースでの展示に加えて、資料情報等の効果的な提供を図るため、ITを活用した拡張展示や資料解説、インターネットを活用した収蔵品情報及び展示の在宅利用などの非来館サービス提供を進める。

■ コミュニティ活動におけるデジタル化の推進

コミュニティ活動の効率化を図るため、デジタル化を推進し、若者等が参加しやすい環境を整備する。

100年という長い人生を豊かにするため、社会人に限らず、若者や高齢者にも、生涯にわたり、学びたいときに、いつでも学ぶことができ、学んだ成果を仕事や地域活動にいかすことができる環境づくりを推進します。

■女性の就業支援

育児や介護などのために離職した女性、または就職をしなかった女性や、今後、就業を希望する女性が、その能力と個性を十分に発揮して働くことができるよう、技能向上や資格取得を支援し、再就職へのチャレンジを後押しするための講座を実施する。

■働き世代の休日講座

働き世代を対象に、各自が抱えている漠然とした不安の解消や将来に向けた備え、スキルアップにつなげるため、今知っておくべき身近な法律や資産管理、デジタル化への対応などについて学ぶ機会を提供する。

■ひたち生き生き百年塾の活動支援

市民が主体となって生涯学習に取り組む環境の充実を図るため、「ひたち生き生き百年塾」の活動を支援し、市民の学びの機会や学びの成果を活用する機会を提供する。

■学習機会の提供のための関係団体との連携

充実した学習機会を提供するため、県北生涯学習センターやコミュニティ単会、NPOとの連携を推進する。

第4章

今後5年間で取り組む施策

1 施策の体系

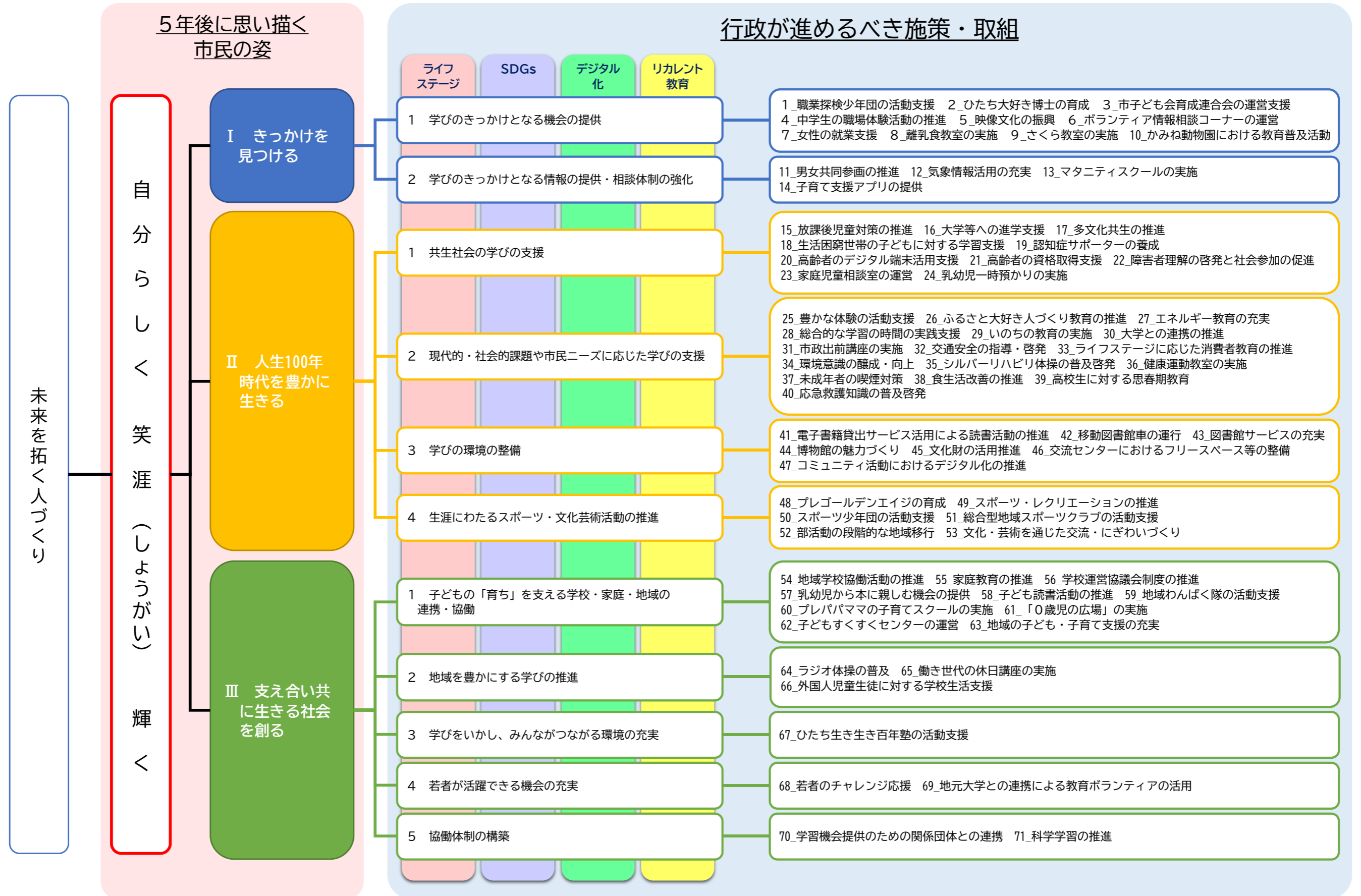
基本理念

推進テーマ

施策の柱

施策の方向性

取組の概要



(1) 推進テーマ

自分らしく 笑涯（しょうがい） 輝く

市民一人一人が、笑顔で、生涯を通じていきいきと学び続けて、豊かで生きがいのある暮らしを送るとともに、学びを地域社会に還元しつつ自分らしく活躍でき、さらに、本市の歴史や文化（ひたちらしぎ）をいかして豊かに暮らせるまちづくりを目指します。

(2) 施策の柱

I きっかけを見つける

市民の学びに関する興味や関心が高まるよう、意識啓発に努めるとともに、学習活動の実践へとつながるよう、様々な機会や手法を活用して生涯学習の魅力や活動情報を発信し、学習のきっかけにつなげていきます。

多様な当事者が対等な構成員として主体的に参画でき、人権が尊重される社会の形成に向け、「誰一人取り残さない」生涯学習を目指します。

I C Tについては、情報を得る手段から生活に欠かせないものに大きく転換しつつあり、あらゆる学びの可能性を拡げる手段であるため、I C Tを活用した学習支援、ネットリテラシーの醸成などに取り組みます。

II 人生100年時代を豊かに生きる

人生100年時代を生き抜くため、誰もが学ぶことによって自らの力を発揮できるよう、生涯を通じて学び続ける力や情報を発信し、誰もが、いつでも、どこでも、学びたいことを学べるよう、学習機会の充実を図ります。

ライフステージや社会情勢の変化に対応した学習の機会を設け、これらの多様な学びを通じ、これからの変化の著しい現代における人づくりを推進します。

次代を担う子どもたちの「学びに向かう力」を育み、心豊かに未来を切り拓いていけるよう、学びを支援します。

Ⅲ 支え合い共に生きる社会を創る

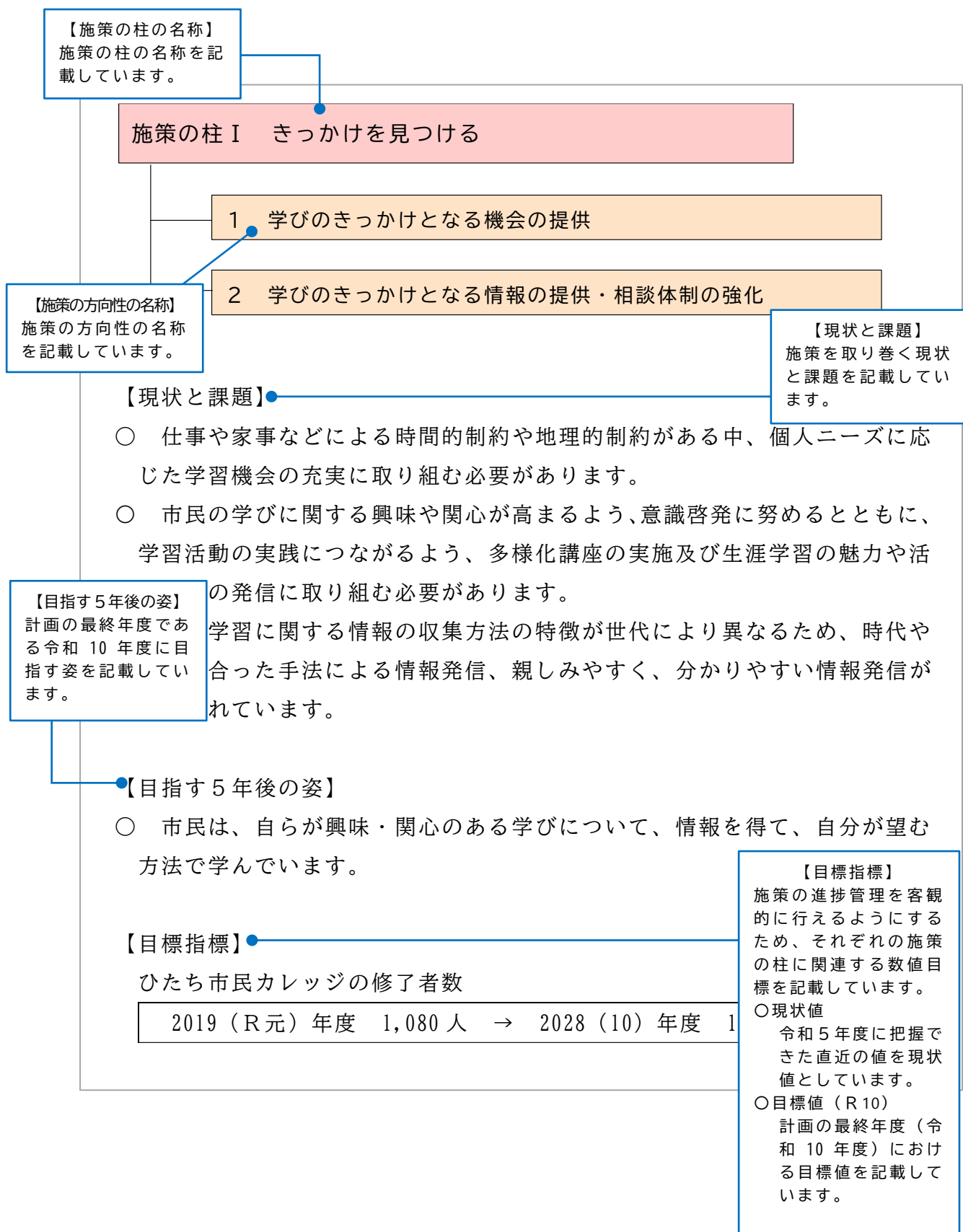
広く市民を対象に、地域課題の解決や持続的発展に関する学習の機会を設け、世代を超えて互いに交流しながら地域に暮らし、それぞれ、生きがいを持ち高め合う「地域共生社会」を推進します。

生涯学習を支える人材の育成を重点的に行うとともに、地域学校協働活動を通じて、地域と学校の連携・協働の一層の推進を図ります。

2 施策の展開

【各施策の構成と見方】

3つの柱ごとに次のような構成になっています。



【施策の方向性】
施策の方向性とそ
の考え方を記載し
ています。

施策の方向性 1 学びのきっかけとなる機会の提供

市民一人一人が、自分に合った学習方法や学習する場を選ぶことができるよ
う、学習活動へのきっかけづくりを行い、学習継続のための動機付けとなるよ
うな取組を推進します。

【取組名】
取組の名称を記載
しています。

【主な取組】

No.	1	担当課	生涯学習課	計画策定の視点				
取組名【事業名】		職業探検少年団の活動支援		ライフステージ	S	D	G	s
				デジタル化	リカレント教育			

■目的
子どもたち一人一人の勤労観、職業観を育てるキャリア教育の一環として、地域や産業
界が一体となり、子どもたちが将来、社会人・職業人として自立していくことができるよ
う、各種の職業を探検（見る・聞く・体験）する少年団活動の運営支援を図る。

- 内容
- 職業探検少年団への運営費補助
 - 団員募集の案内
 - 団員が活動の記録や将来の夢を記入するノートの作成・配布
 - 合同見学会の開催やホームページ等による広報活動
 - オンラインによる少年団活動への参加の検討

■方向性
全国的に珍しい取組であり、子どもたちの職業感を学ぶ良い機会でもあるため、人材不
足や高齢化などの課題がある運営団体のサポート体制の強化を図りつつ、継続して取り
組んでいく。

【方向性】
取組の現状と課題を
踏まえた今後の方向
性を記載していま
す。

【計画策定の視点】
より推進していく項目
を囲んでいます。

【内容】
主な取組内容を記載
しています。

【目的】
取組の目的を記載し
ています。

施策の柱Ⅰ きっかけを見つける

1 学びのきっかけとなる機会の提供

2 学びのきっかけとなる情報の提供・相談体制の強化

【現状と課題】

- 仕事や家事などによる時間的制約や地理的制約がある中、個人ニーズに応じた学習機会の充実に取り組む必要があります。
- 市民の学びに関する興味や関心が高まるよう、意識啓発に努めるとともに、学習活動の実践につながるよう、多様化講座の実施及び生涯学習の魅力や活動情報の発信に取り組む必要があります。
- 生涯学習に関する情報の収集方法の特徴が世代により異なるため、時代や世代に合った手法による情報発信、親しみやすく、分かりやすい情報発信が求められています。

【目指す5年後の姿】

- 市民は、自らが興味・関心のある学びについて、情報を得て、自分が望む方法で学んでいます。

【目標指標】

ひたち市民カレッジの修了者数

2019（R元）年度 1,080人 → 2028（10）年度 1,100人

施策の方向性 1 学びのきっかけとなる機会の提供

市民一人一人が、自分に合った学習方法や学習する場を選ぶことができるよう、学習活動へのきっかけづくりを行い、学習継続のための動機付けとなるような取組を推進します。

【主な取組】

No.	1	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】	職業探検少年団の活動支援			ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
■目的	子どもたち一人一人の勤労観、職業観を育てるキャリア教育の一環として、地域や産業界が一体となり、子どもたちが将来、社会人・職業人として自立していくことができるよう、各種の職業を探検（見る・聞く・体験）する少年団活動の運営支援を図る。			
■内容	<ul style="list-style-type: none"> ○職業探検少年団への運営費補助 ○団員募集の案内 ○団員が活動の記録や将来の夢を記入するノートの作成・配布 ○合同見学会の開催やホームページ等による広報活動 ○オンラインによる少年団活動への参加の検討 			
■方向性	全国的に珍しい取組であり、子どもたちの職業感を学ぶ良い機会でもあるため、人材不足や高齢化などの課題がある運営団体のサポート体制の強化を図りつつ、継続して取り組んでいく。			

No.	2	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】	ひたち大好き博士の育成			ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
■目的	本市のかけがえのない文化や地域資源について学び、理解を深めることにより、郷土愛を育むとともに、「ふるさと日立」を誇りに思えるような子どもの育成を図る。			
■内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ひたち大好きパスポートの作成・配布 ○ひたち大好き博士の周知及び認定 ○「ひたち大好きパスポート デジタル版」の運用管理 			
■方向性	子どもたちが、自分の住んでいる地域の歴史や自然に関心を持つ機会と地域行事に参加する機会が少なくなっていることから、ふるさとへの理解を深めるきっかけづくりとして、継続して取り組んでいく。			

No.	3	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】 市子ども会育成連合会の運営支援				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 子ども会は地域を基盤とした子どもの異年齢活動や地域の方との交流など、様々な体験機会を提供している。 その子ども会を統括する子ども会育成連合会の活動を支援し、子ども会活動に関する指導、研修、調整機能を高めて、次第を担う子どもたちの健全な育成を図る。</p> <p>■内容 ○市子ども会育成連合会の運営支援 ○写生会や国内親善都市との交流会、子どもまつりなどのイベント開催支援</p> <p>■方向性 市子ども会育成連合会の組織力向上を図り、地域を基盤とした子どもの異年齢活動の場である、各地域の子ども会活動が継続的に行われるよう支援していく。</p>				

No.	4	担当課	指導課	計画策定の視点
取組名【事業名】 中学生の職場体験活動の推進				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 中学2年生を対象に、職業生活を実体験できる協力事業所での職場体験活動を3日間実施し、望ましい職業観を始め、他者との関わりや思いやり、社会のルール等を学び、主体的、創造的に生きていくことができる資質や能力を育成する。</p> <p>■内容 ○実施時期 各学校の実施計画による (特定の時期に集中しないように学校間で調整した3日間) ○活動場所 日立市内を中心とした職場、事業所等</p> <p>■方向性 中学生が望ましい職業観を始め、他者との関わりや思いやり、社会のルール等を学び、主体的、創造的に生きていくことができる資質や能力を育成する有益な事業であり、継続して取り組んでいく。</p>				

No.	5	担当課	記念図書館 (視聴覚センター)	計画策定の視点
取組名【事業名】 映像文化の振興			ライフステージ	S D G s
			デジタル化	リカレント教育
<p>■目的 子どもたちの健全育成及び地域活動・文化活動の振興を図るため、地域の実情に応じた学校と地域との協働による映画会等を開催するとともに、施設内上映の充実を図る。</p> <p>■内容 ○視聴覚センター館内及び他施設での映画会の開催 ○地域イベント等への映像関係支援 ○映像資料等の保存活用（デジタル化及びアーカイブ化） ○視聴覚教育活動（教材制作等）の支援</p> <p>■方向性 ・映像アーカイブシステムの導入（研究→試行→導入） ・機材、教材の更新 ・旧型機材の維持</p>				

No.	6	担当課	コミュニティ推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 ボランティア情報相談コーナーの運営			ライフステージ	S D G s
			デジタル化	リカレント教育
<p>■目的 社会福祉協議会等と連携し、各種ボランティア団体に情報提供等の必要な支援を行う。</p> <p>■内容 ○ボランティア団体の情報交換会や研修会の開催 ○活動に必要な助成金や研修会などの情報提供 ○市民活動災害補償保険事務</p> <p>■方向性 必要な支援等を継続して実施していく。</p>				

No.	7	担当課	女性若者支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】 女性の就業支援				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 育児や介護などのために離職した女性や、今後、就業を希望する女性が、その能力と個性を十分に発揮して働くことができるよう、技能向上や資格取得を支援し、再就職へのチャレンジを後押しするための講座を実施する。</p> <p>■内容 ○女性の希望をかなえる就業支援講座 ○オンラインによる就業支援講座実施の検討</p> <p>■方向性 女性の就業率が上がってきているが、多くの女性はいまだ家庭の事情で働き方を制限せざるを得ない環境に置かれている。 女性が様々な働き方について意思を持って選択できるよう、また、自信と希望を持って就労できるよう必要な支援を行う。</p>				

No.	8	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 離乳食教室の実施				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 離乳食の知識の普及を行うとともに、参加者からの個別相談に対応し、安心して子育てができる環境づくりを図る。</p> <p>■内容 ○生後4か月から6か月の乳児を持つ保護者を対象に、講話とデモンストレーションによる離乳食教室を実施。</p> <p>■方向性 保護者が安心して子育てできる機会として事業を継続するとともに、参加しやすい環境づくりとして、インターネットを活用した予約方法の見直しを行う。</p>				

No.	9	担当課	さくら課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
さくら教室の実施				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 小学生を対象に、市の花である「桜」を通して、郷土の宝を大切に作る心を育む取組の一環として、桜に関する学習の機会を創出する。</p> <p>■内容 ○小学生を対象に「さくら教室」を実施</p> <p>■方向性 市の花である「桜」を通して、本市における桜の歴史の伝承や、桜に触れ合う機会を創出し、桜をシンボルとして誇れる意識の醸成を図るため、今後も「さくら教室」を継続して実施する。</p>				

No.	10	担当課	かみね公園管理事務所	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
かみね動物園における教育普及活動				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 動物園は、レジャー施設であると同時に、教育普及や調査研究、種の保存についての役割も担う施設である。 来園者が楽しみながら学べる施設として、体系的に教育普及活動に取組み、魅力向上を図る。</p> <p>■内容 ○夏休みサマースクールの実施 ○移動動物園の実施（保育園・幼稚園） ○動物園・大学共同調査研究 ○かみねおもしろZOOサロン等のイベント実施 ○各種観光キャンペーンとの連携</p> <p>■方向性 動物園には、「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」といった4つの役割があり、その中の「教育・環境教育」、「調査・研究」の認知度の向上により、動物を通じた命の大切さを学んでもらい、子どもたちの豊かな心を育てる一助とする。</p>				

施策の方向性 2 学びのきっかけとなる情報の提供・相談体制の強化

全ての市民が、学ぶことの楽しさや大切さに、興味・関心を持ち、生涯学習講座等に参加できるよう、様々な機会や手法を活用して学習情報を提供します。

また、多様な学習に関する問合せや相談に、いつでも対応できるよう、百年塾サロンなどにおける学習相談体制の充実を図ります。

【主な取組】

No.	11	担当課	女性若者支援課	計画策定の視点	
取組名【事業名】				ライフステージ	S D G s
男女共同参画の推進				デジタル化	リカレント教育
<p>■目的</p> <p>男女が共に互いを大切にして責任を分かち合い、生き生きと個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の形成に向けて積極的な情報提供を行い、理解促進を図る。</p> <p>また、学校教育だけでなく、生涯にわたりキャリア形成についての学びが続けられるよう、女性が早い段階から将来を見据えたライフプラン形成について考える機会を提供する。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学生のいる家庭に男女共同参画に関する意識啓発 ○リカレント教育実施事業体制の構築 ○様々な職種で活躍している女性ロールモデルの活動紹介番組 <p>■方向性</p> <p>世代によっても感覚の違う固定的性別役割分担意識の払拭を図るため、広報モニター等を活用した意見聴取、広報回数が増、ロールモデルの対象拡大など、情報に偏りが出ないように工夫しながら、継続して実施していく。</p>					

No.	12	担当課	環境推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
気象情報活用の充実				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 自治体で唯一の予報業務をいかし、公害克服の歴史を始め、天気の特徴、防災上の注意点を講座や行政放送で伝えるなど、市民の気象・防災知識の普及に向けた取組を促進する。</p> <p>■内容 ○実験や体験の要素を組み入れた出前講座の実施 ○観測所の増設 ○北部観測所の移転 ○熱中症や気象災害の注意点をまとめた短編動画の配信</p> <p>■方向性 市民に対して気象知識の普及と観測データの提供を行っていくことは、一人一人の災害予防につながるため、継続して実施していく。</p>				

No.	13	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
マタニティスクールの実施				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 健康教育により、育児力を高める正しい知識の普及、育児の不安軽減、児童虐待予防を図る。</p> <p>■内容 ○妊娠・出産についての知識や実用的な情報提供 ○妊婦同士が情報交換し、交流できる機会の提供 ○対面に加え、オンラインでも参加できる環境を整備</p> <p>■方向性 参加者ニーズ等の変化により、教育内容の見直し等を図りながら、継続して事業を実施していく。</p>				

No.	14	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ
子育て支援アプリの提供				S D G s
				デジタル化
				リカレント教育
<p>■目的 紙の母子手帳を補完するものとして子育て支援アプリを提供し、市民の利便性向上を図る。</p> <p>■内容 ○子育て支援アプリに予防接種スケジューラー機能、電子母子手帳機能（妊婦管理・成長記録・乳幼児健診）、多言語機能を装備するとともに、子育て支援情報等を登録者に配信する。</p> <p>■方向性 国が進めている母子保健のデジタル化を注視し、必要なシステム改修等を行い、今後も、保護者が活用しやすいアプリの提供を行っていく。</p>				

施策の柱Ⅱ 人生100年時代を豊かに生きる

1 共生社会の学びの支援

2 現代的・社会的課題や市民ニーズに応じた学びの支援

3 学びの環境の整備

4 生涯にわたるスポーツ・文化芸術活動の推進

【現状と課題】

- 共生社会の実現に向け、誰もが気軽に学習に参加できる環境づくりが必要です。
- 家族形態や働き方など、ライフスタイルの変化に伴い、一人一人が豊かな生活を送るために求めている学習ニーズが多様化しています。また、情報化・多文化共生・環境問題など、急速な社会の変化による課題が生じており、学習ニーズや現代的課題に対応するための学習機会の提供が求められています。
- 人生100年時代において、誰もが生涯を生き生きと活躍できるよう、新たな学びを繰り返しながら新しいことに挑戦できる活動機会の充実が求められています。
- 市民の身近な学習施設である図書館等が、より利用しやすくなるよう、それぞれの特色をいかした魅力づくりが必要です。

【目指す5年後の姿】

- 市民は、いつでも、どこでも学べる環境で、生涯わたり多様な学びに取り組んでいます。

【目標指標】

国際交流事業の参加者数

2019（R元）年度 4,211人 → 2028（令和10）年度 4,400人

市民向けの生涯学習講座の参加者数

2019（R元）年度 614人 → 2028（令和10）年度 650人

文化施設の利用者数

2023（R元）年度 532千人 → 2028（令和10）年度 560千人

施策の方向性 1 共生社会の学びの支援

年齢や性別、国籍、経済状況等に関わらず、誰もが「いつでも、どこでも」学ぶことができるよう、多様な学習スタイルによる学習機会や交流機会の提供を図ります。

【主な取組】

No.	15	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】		放課後児童対策の推進		ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 放課後等に、共働き家庭の児童に対しては適切な遊びや生活の場を提供するとともに、全ての児童に対して安全・安心な居場所を提供し、学習やスポーツ・文化活動、体験・交流活動の充実を図り、健全に成長できる環境を整備する。</p> <p>■内容 ○公設児童クラブ及び放課後子ども教室の一体的な実施 ○児童クラブ及び放課後子ども教室の環境整備</p> <p>■方向性 児童クラブ及び放課後子ども教室における利用者増を図るため、環境整備（場所、物、人）の充実を図る必要がある。特にソフト面については、児童クラブの開設時間延長、冬休み・春休みの利用拡大、配慮を要する児童の対応など、支援員の人的確保と対応知識の向上を図る方策を検討する。</p>				

No.	16	担当課	健康づくり推進課・指導課	計画策定の視点
取組名【事業名】			ライフステージ	S D G s
大学等への進学支援			デジタル化	リカレント教育
<p>■目的 経済的な理由によって修学が困難な若者の進学を支援するため、奨学金の貸付を行う。 奨学金を利用して大学等を卒業し、市内に居住するなどの要件を満たした者を対象に、奨学金返還金の支援を行うことにより、若者の定住促進や、医療・介護・福祉職の人材確保を図る。</p> <p>■内容 ○奨学金の無利子貸付 ○市内定住者への助成</p> <p>■方向性 補助対象を拡充した事業実績を分析し、かつ、補助対象者へのアンケートを実施することにより、事業効果の検証を行い、利用者ニーズの把握に努める。 補助対象者に対して、奨学金返還支援事業がIターン、Uターンの検討に与えた影響等についての調査を実施する。</p>				

No.	17	担当課	文化・国際課	計画策定の視点
取組名【事業名】			ライフステージ	S D G s
多文化共生の推進			デジタル化	リカレント教育
<p>■目的 市民と外国人市民が共に協力して、安心して暮らせるよう、多文化共生の地域づくりを推進するため、多言語での情報提供や、外国人市民に対する総合的な生活支援サービス提供を行う。</p> <p>■内容 ○外国人市民向け無料相談会 ○外国人市民向け施設見学会 ○国際交流ウォーキング ○市ホームページ等でのコロナや生活情報の発信</p> <p>■方向性 各種事業を継続して実施していくことにより、市民の国際交流活動の推進や、異文化への理解が深まるとともに、日本人と外国人が互いに認め合い共に生きていく「多文化共生社会」の実現を図る。 まずは、必要としている外国人市民に情報が届くように、幅広く事業参加、情報提供を図る方法を検討していく。</p>				

No.	18	担当課	生活支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】 生活困窮世帯の子どもに対する学習支援				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 生活保護受給世帯の子どもの大学等進学率が一般家庭の子どもより著しく低いことを踏まえ、貧困の連鎖を断ち切り、生活困窮世帯の子どもの自立を助長することを目的とする。 また、学習機会が十分でない生活困窮世帯の子どもに学習の機会を設け、子どもの将来の可能性を広げることにより、貧困の連鎖の解消を目指すとともに、子どもの居場所づくりの一助とする。</p> <p>■内容 ○生活困窮世帯の子供の学習教室を実施（NPO法人へ業務委託）</p> <p>■方向性 対象者のニーズに合わせ、教室、講師の必要数の見直し、また、他の業者への委託を検討する。</p>				

No.	19	担当課	高齢福祉課	計画策定の視点
取組名【事業名】 認知症サポーターの養成				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 認知症高齢者が増加する中、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して生き生きと生活できるよう、地域で支え合う体制の強化を図る。</p> <p>■内容 ○「認知症サポーター」養成講座の実施</p> <p>■方向性 認知症について学び、理解を深めることで、認知症の方とその家族を温かく見守る認知症サポーターの増員を図るため、幅広い年代を対象に養成講座を実施する。</p>				

No.	20	担当課	高齢福祉課	計画策定の視点
取組名【事業名】 高齢者のデジタル端末活用支援				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 いつでもメールやSNSなどを活用し、人とのつながり・交流が持てる機会や、市のホームページ等の行政情報について、即座に触れることができる機会の創出を図る。</p> <p>■内容 ○タブレット・スマートフォン講座の実施 ○個別に相談できる「高齢者ICT相談コーナー」の実施</p> <p>■方向性 高齢者を対象にタブレット・スマートフォン講座を実施するとともに、スマホ等の操作方法等について、気軽に個別相談できる相談コーナーを引き続き実施する。また、当該事業の周知・PRを継続して行い、より多くの方に利用してもらえよう努める。</p>				

No.	21	担当課	高齢福祉課	計画策定の視点
取組名【事業名】 高齢者の資格取得支援				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 高齢者が生きがいをもって生き生きと活動できる明るい長寿社会の実現と介護予防の推進を図る。</p> <p>■内容 ○資格等取得に要した経費の一部補助（対象経費の2分の1 上限1万円）</p> <p>■方向性 高齢者の生きがいづくりの更なる拡大を図り、明るく活力ある長寿社会を実現するため、事業を検証しながら実施する。また、当該事業の周知・PRを継続し、より多くの方に利用してもらえよう努める。</p>				

No.	22	担当課	障害福祉課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ
障害者理解の啓発と社会参加の促進				S D G s
				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的</p> <p>障害に対する正しい理解を啓発し、成年後見制度の利用促進や障害者差別の解消、虐待の未然防止などへの取組を推進し、共生社会の実現を図る。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日立市ふれあい運動会 ○障害者権利擁護 ○虐待防止研修会 ○スポーツレクリエーションふれあい教室 ○障害者作品展 <p>■方向性</p> <p>共生社会の実現のためには、地域に暮らす誰もが障害についての正しい知識を持ち、助け合い・支え合う地域づくりを進めていく。</p>				

No.	23	担当課	子育て支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ
家庭児童相談室の運営				S D G s
				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的</p> <p>家庭における適正な児童養育、その他の家庭児童福祉の向上を図るため専門的な相談や支援を行う。</p> <p>また、子どもの養育環境の悪化や、保護者の養育力の低下等の相談が増加しているため、家庭における子どもの養育環境の健全化を図り、子どもと家庭に関する様々な問題の解決のほか、ひとり親家庭の自立促進を図るための相談や支援を行う。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭における児童の養育環境の健全化及び児童福祉の向上を図るための相談 ○特に養育支援が必要であると判断した家庭への訪問指導、助言等 ○保護者が疾病等により養育することができない場合の一時的な児童養護施設等での保護 ○ひとり親家庭の母又は父が、資格取得のために修学する場合の給付金の支給 <p>■方向性</p> <p>全ての家庭が子育てしやすい環境づくりを一層進めるため、こども家庭センター（R6.4設置予定）を始め、保育施設、学校、子育て支援施設など様々な所で相談しやすい体制を整えるとともに、ホームページや情報アプリ等を活用した効果的な子育て情報の提供に努める。</p>				

No.	24	担当課	子ども施設課	計画策定の視点				
取組名【事業名】				ライフステージ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>S</td><td>D</td><td>G</td><td>s</td></tr></table>	S	D	G	s
S	D	G	s					
乳幼児一時預かりの実施				デジタル化 リカレント教育				
<p>■目的 保護者の用事や仕事、リフレッシュなどにより、家庭における保育が一時的に困難となった乳幼児を預かり、必要な保育を行うことで、地域のニーズに合わせた子育て支援の充実を図る。</p> <p>■内容 ○保育園や認定こども園、幼稚園において乳幼児の一時預かりを実施 ※各園によって、対象となる乳幼児が異なる。</p> <p>■方向性 現在、こども家庭庁のこども誰でも通園制度（仮称）のモデル事業が県外の自治体において実施されており、今後、国の方針により、事業の考え方が変更になることも予想されるため、国の動向を注視する。</p>								

施策の方向性 2 現代的・社会的課題や市民ニーズに応じた学びの支援

社会の変化やライフステージが多様化する中、市民のライフステージに応じた幅広い学習プログラムの提供と継続的な学習機会の充実を図るとともに、誰もが学習に参加しやすい環境づくりに取り組みます。

【主な取組】

No.	25	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】		豊かな体験の活動支援		ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 地域の人材や企業等の協力を得て、土曜日や長期休業期間における子どもたちの多様な体験活動の機会を設け、教育支援体制の強化を図り、豊かな心を育むとともに、生きる力を向上させる。</p> <p>■内容 ○夏休み子ども教室（地学）の開催 ○伝統芸能活動の実施 ○地域と連携した食育講座の開催 ○ひたちっ子わくわくイングリッシュ（英語体験活動）の開催</p> <p>■方向性 土曜日や長期休業期間を利用した体験活動として、今後も継続して実施する考えである。 また、英語体験活動については、より多くの児童が参加できる事業内容を検討する。</p>				

No.	26	担当課	指導課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ
ふるさと大好き人づくり教育の推進				S D G s
				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 小学6年生を対象に校外学習を実施し、史料の見学等を通して郷土への関心を高める。 また、小学3・4年生に、郷土や暮らしについての身近な内容の副読本を配布することで、社会科のねらいや内容を踏まえるとともに地域学習の充実を図る。</p> <p>■内容 ○「日立市郷土博物館」、「日鉱記念館」、「日立オリジンパーク」のうち、2か所以上を見学 ○小学校3・4年生に「のびゆく日立」を配布</p> <p>■方向性 鉱工業を中心に発展してきた本市の歩みや、戦災とその復興を中心とする歴史に対する児童の理解を深め、郷土を思う気持ちを育てる事業であり、今後も継続が必要である。</p>				

No.	27	担当課	指導課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ
エネルギー教育の充実				S D G s
				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 原子力・エネルギー学習関連教材等を活用した理科の授業により、児童生徒に原子力及びエネルギーに関する基礎知識の普及を図る。</p> <p>■内容 ○原子力やエネルギーの学習関連教材等を小中学校に配布</p> <p>■方向性 児童生徒がエネルギー教育の理解を深めることは、脱炭素社会の実現に向けた取組を推進する観点からも重要である。</p>				

No.	28	担当課	指導課	計画策定の視点					
取組名【事業名】 総合的な学習の時間の実践支援				ライフステージ <table border="1"><tr><td>S</td><td>D</td><td>G</td><td>s</td></tr></table> デジタル化 <table border="1"><tr><td>リカレント教育</td></tr></table>	S	D	G	s	リカレント教育
S	D	G	s						
リカレント教育									
<p>■目的 地域や学校、児童生徒の実態に応じて、児童生徒の興味・関心等に基づく探究的な活動など、各学校の創意工夫をいかした特色ある教育活動ができるよう支援する。</p> <p>■内容 ○総合的な学習の時間の取組例（日立の歴史や文化を地域の人から学ぶ、地域の専門家から学ぶ）等の情報提供</p> <p>■方向性 生活の中で役立つ能力の育成や、学びに関する意欲や価値観の育成などを重視し、社会や自然についての学習を通じて、多様な学習機会を提供する。 単元の縦割りの学習の垣根を取り払い、科目を横断する学習を推進することで、学習の一貫性や関連性を高め、体験を通して学ぶ機会を増やしていく。</p>									

No.	29	担当課	指導課・健康づくり推進課	計画策定の視点					
取組名【事業名】 いのちの教育の実施				ライフステージ <table border="1"><tr><td>S</td><td>D</td><td>G</td><td>s</td></tr></table> デジタル化 <table border="1"><tr><td>リカレント教育</td></tr></table>	S	D	G	s	リカレント教育
S	D	G	s						
リカレント教育									
<p>■目的 助産師や医師などを講師として、かけがえのない「いのち」の大切さ、すばらしさを伝え、子どもの「自他ともに大切とする心」を育むとともに、親子の絆を深める。</p> <p>■内容 ○小学4年生の親子、中学3年生を対象に「いのちの教育」の実施</p> <p>■方向性 児童生徒の発達段階に応じた性に関する指導・教育を施し、知識を伝えることは重要であるため、継続して実施する。</p>									

No.	30	担当課	政策企画課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
大学との連携の推進				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 まちづくりを進める上での貴重な資源であり、重要なパートナーでもある大学との連携を強化し、市と大学が有する情報・知識・人材等を互いにかししながら、大学連携事業の推進を図っていく。</p> <p>■内容 ○学生プロジェクトの実施 ○茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学との連携強化</p> <p>■方向性 茨城キリスト教大学との共同事業である「学生プロジェクト」の目的は、学生への学習機会の提供、アイデアやニーズの掘り起こしなどであり、この活動を通じて、本市の発展及び学生の社会貢献意識の醸成による地域への愛着心の高揚が図られているところである。 学生の発表内容が、市の課題解決につながるものもあることから、今後も引き続き、学生の研究結果の熟度向上と、提案後における担当部署へのフォローアップを図っていく。</p>				

No.	31	担当課	広報戦略課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
市政出前講座の実施				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 市政に対する市民の理解を深めるとともに、市民から意見等を聴くことにより、事務事業の改善等に役立てるため、市職員が地域に赴いて、市の施策等を説明する。</p> <p>■内容 ○市内に在住、在勤又は在学する10人以上の者で構成された団体等が希望するテーマに対し、担当課所の職員が地域に赴いて、市の施策等を説明する。</p> <p>■方向性 市民の市政に対する理解を深めるとともに、学習機会の充実等を図るため、市民への周知・広報に努めながら、事業を継続する。</p>				

No.	32	担当課	交通防犯課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
交通安全の指導・啓発				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 市民一人一人の交通安全に対する意識を向上させ、交通事故の減少を図る。</p> <p>■内容 ○関係団体と連携、協力した各季における交通安全運動、啓発キャンペーン及び高齢者在家訪問の実施 ○園児、児童生徒、保護者、高齢者を対象とした交通安全教室の実施</p> <p>■方向性 交通事故を防止するため、継続して市民の安全意識の高揚を図る。</p>				

No.	33	担当課	女性若者支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
ライフステージに応じた消費者教育の推進				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 高齢化の進行、成年年齢の引下げ、デジタル化の進展など、消費生活の環境が大きく変化していることから、消費者のライフスタイルやニーズに合わせた消費者被害防止のための教育を推進する。</p> <p>■内容 ○悪質商法被害防止啓発品配布 ○高齢者被害防止のための啓発 ○中学生のための消費生活ハンドブックの作成・配布 ○出前講座の実施 ○20歳の祝い対象者に対する啓発チラシの作成・配布</p> <p>■方向性 消費者被害を防止するためには、消費者が悪質商法等の消費生活に関する知識や情報を習得することが効果的であるため、様々な学ぶ場面を提供する。また、高齢者の被害が多いことから地域などで見守り活動をする消費生活サポーターの育成や、見守り活動をしている団体等との連携を図る。</p>				

No.	34	担当課	環境推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 環境意識の醸成・向上				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 次世代を担う子どもたちの環境への関心の芽を育てるため、自然観察会、環境保全活動、学習会を実施する。 また、環境意識の醸成や、地域の環境リーダーの育成を目的として、自然を守るための実践活動を行う団体に対し、補助を行う。</p> <p>■内容 ○子どもの環境教育活動への支援 ○環境を考えるポスター展の実施 ○ひたちこどもエコクラブ活動の推進</p> <p>■方向性 環境活動の継続性を図るため、次世代リーダーの育成や、新たな協力員の参加を募る。 環境意識の醸成を目的とする「環境補助金」が、幅広く活用されるように事業のPRを強化し、新規活用団体を掘り起こす。</p>				

No.	35	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 シルバーリハビリ体操の普及啓発				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 シルバーリハビリ体操を普及させることにより、高齢者の閉じこもり予防や心身機能の維持・向上、介護予防を図る。</p> <p>■内容 ○シルバーリハビリ体操指導士を確保するため、3級指導士の養成 ○シルバーリハビリ体操指導士による介護予防体操の普及啓発</p> <p>■方向性 指導士の高齢化が進んでいるとともに、負担が一部の人に偏っていることから、更なる養成について検討する。</p>				

No.	36	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 健康運動教室の実施				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 日立市医師会や各コミュニティ単会と連携し、壮年期から高齢期の方の体力及び筋力の向上を図る。</p> <p>■内容 ○生活習慣病を予防するため、各コミュニティ単会に運動習慣づくりと健康教育を合わせた健康運動教室の指導者（フィットネスインストラクター、保健師、栄養士、歯科衛生士など）を派遣する。</p> <p>■方向性 健康づくり推進員が主体となって健康運動教室が企画・運営できるよう継続した支援が必要である。</p>				

No.	37	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 未成年者の喫煙対策				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 未成年者及び保護者を対象に、市医師会、歯科医師会、学校、幼稚園等と連携し、たばこや受動喫煙の害を学ぶ機会を提供し、正しい知識の普及を図る。</p> <p>■内容 ○未就学児親子の喫煙防止研修会や小学校における喫煙防止教育、中学校における「歯と口の健康教育～喫煙が口腔に及ぼす影響～」等</p> <p>■方向性 日立市地域医療協議会「タバコと健康に関する専門委員会」、歯科医師会、教育委員会等関係機関と連携し、喫煙対策を推進していく。</p>				

No.	38	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
食生活改善の推進				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 乳児から高齢者まで、ライフステージに応じた望ましい食習慣づくりと生活習慣病予防のための知識普及を図る。</p> <p>■内容 ○食生活改善推進員の養成 ○食生活改善推進員地区組織活動</p> <p>■方向性 働き世代に対し、食育支援をするためのアプローチについての検討が必要である。</p>				

No.	39	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
高校生に対する思春期教育				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 高校生を対象に、将来子どもを産みたいと希望する適切な時期に妊娠・出産ができるよう、「ライフプラン教育」を実施し、妊娠・出産に関する正しい知識の普及を行い、望まない妊娠を防ぎ、児童虐待の予防を図る。</p> <p>■内容 ○高等学校と連携し、「ライフプラン教育」の実施</p> <p>■方向性 社会の変化に合わせて、教育内容を見直す必要がある。</p>				

No.	40	担当課	警防課	計画策定の視点
取組名【事業名】 応急救護知識の普及啓発				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 市民に対する応急手当普及啓発を強化することにより、応急手当の実施率の向上を図る。 また、市立中学校の1年生を対象とする普通救命講習を継続し、若年層における応急手当の意識向上を図る。</p> <p>■内容 ○普通救命講習や救急教室等の各種講習会の実施</p> <p>■方向性 感染症に対する社会の動向を注視しつつ、市民からの需要に対し、安定して講習会を開催できる体制を整備する必要がある。</p>				

施策の方向性 3 学びの環境の整備

図書館や博物館等の生涯学習関連施設が、市民にとって利用しやすい、魅力のある学習の場となるよう、利便性の向上や新たな交流の創出に向けた取組を推進するとともに、安全で快適な施設となるよう、適切な維持管理を行います。

また、ICTの活用により、時間的制約や地理的制約を解消することで、学習機会の拡大を図ります。

【主な取組】

No.	41	担当課	記念図書館	計画策定の視点
取組名【事業名】 電子書籍貸出サービス活用による読書活動の推進				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 普段図書館に来館できない社会人、介護や子育て中の方、障害を持つ方等が、来館せず「いつでも、どこでも、だれでも利用できる読書環境」を提供し、図書館サービスのユニバーサル化を図る。</p> <p>■内容 ○電子書籍の貸出</p> <p>■方向性 電子書籍の更なる利用の拡大に努める。</p>				

No.	42	担当課	記念図書館	計画策定の視点
取組名【事業名】 移動図書館車の運行				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 移動図書館車（冷房装置、リフト付き）を運行し、図書館利用が困難な地域や高齢者福祉施設などに図書館サービスを提供する。 また、幼児施設や夏休みに公設児童クラブを巡回し、子ども読書活動の推進を図る。</p> <p>■内容 ○図書館利用が困難な地域、高齢者福祉施設、幼児施設等を巡回し、図書の貸出しを行う。 ○夏休みに公設児童クラブを巡回し、子ども読書活動の推進を図る。 （各クラブ2回） ○各種イベントに移動図書館車が出張し、まちのにぎわいづくりに貢献するとともに更なる利用促進を図る。</p> <p>■方向性 利用の少ないステーションにチラシを配布するなどにより、更なる利用の拡大に努めるとともに、幼児施設や公設児童クラブへ巡回することで、子ども読書活動の推進を図っていく。</p>				

No.	43	担当課	記念図書館	計画策定の視点
取組名【事業名】 図書館サービスの充実				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 地域の知の拠点として学びを支えるとともに、多様化する市民のニーズやデジタル化等の時流に応じた幅広いサービスを展開することで、市民の利便性向上と図書館の魅力向上を図る。</p> <p>■内容 ○図書館資料、情報提供、レファレンスサービスの更なる充実 ○本の企画展示、講座・講演会、図書館まつり等の開催 ○朗読、大人のためのお話し会等の大人向け読書活動の推進 ○他市町村との広域連携（相互貸出）の推進 ○学校との連携、交流センターなどへの配本、団体貸出サービスの推進 ○図書館専用ホームページ等による広報活動の充実 ○図書館ボランティア、自主グループの育成と協働推進</p> <p>■方向性 ・多様化する市民のニーズやデジタル化等の時流に応じた幅広いサービスを展開する。 ・学校、交流センター、他市町村図書館等との幅広い連携を強化する。 ・図書館ボランティアの育成と協働による図書館の活性化を図る。</p>				

No.	44	担当課	郷土博物館	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
博物館の魅力づくり				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的</p> <p>進展する高齢化に対応し、さらには、現役世代から児童生徒まで幅広い世代が交流しながら活躍できる機会を提供する場として、博物館の魅力向上に取り組む。</p> <p>また、限られたスペースでの展示に加えて、資料情報等の効果的な提供を図るため、I Tを活用した拡張展示や資料解説、インターネットを活用した収蔵品情報及び展示の在宅利用などの非来館サービス提供を進める。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○博物館機能のI T化推進 ○来館者および非来館者サービスの拡充 ○収蔵資料を活用し、より多様なニーズに応えることができる特別展示等の開催 <p>■方向性</p> <p>博物館法の改正により、資料のデジタルアーカイブ化推進が求められているため、収蔵品データベースの掲載内容の整備に努め、資料情報の充実を図る。</p>				

No.	45	担当課	郷土博物館	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
文化財の活用推進				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的</p> <p>本市の誇る文化財を活用し地域の魅力を再発見することにより、進展する高齢化に対応するアクティブシニアの活躍の場を拡大し、また、若者のシビックプライドの醸成を培い定住促進を促す。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財回廊モデルルートの作成 ○文化財・史跡等への案内板等設置 ○I T技術を活用した展示の検討 ○遺跡等のビジターセンター整備 <p>■方向性</p> <p>施設等の整備、特に長者山遺跡周辺のビジターセンターなど大規模な整備費用が想定される事業については、文化庁ほか各省庁等からの財源確保について十分に検討する必要がある。</p>				

No.	46	担当課	コミュニティ推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 交流センターにおけるフリースペース等の整備				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 交流センターに、子育て世代、児童生徒、若者等が気軽に立ち寄れる「フリースペース」や、利用しやすい「学習室」などを整備し、親しみやすい施設にすることで、顔が見える関係づくりのきっかけとし、コミュニティ活動の拡張を図る。</p> <p>■内容 ○フリースペースの整備</p> <p>■方向性 交流センターに気軽に立ち寄れる環境を整備することで、地域コミュニティの活動拠点である交流センターがより多くの方に利用され、コミュニティ活動の活性化につなげる。</p>				

No.	47	担当課	コミュニティ推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 コミュニティ活動におけるデジタル化の推進				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 コミュニティ活動の効率化を図るため、デジタル化を推進し、若者等が参加しやすい環境を整備する。</p> <p>■内容 ○各コミュニティ主催のデジタル勉強会等の開催支援 ○デジタル支援員による支援 ○オンライン会議の活用 ○公式LINEやインスタグラムなどのSNSによる情報配信</p> <p>■方向性 デジタル機器の配備をきっかけに、各コミュニティがSNSでの情報発信やイベント申込み、アンケートなどのオンライン化に取り組み、コミュニティ活動に参加しやすい環境を整備する。</p>				

施策の方向性 4 生涯にわたるスポーツ・文化芸術活動の推進

全ての市民がスポーツを気軽に親しみ、楽しむことができるよう、ライフステージやライフスタイルに応じて参加できる多様なスポーツ教室等を実施し、スポーツができる機会の充実を図ります。

誰もが文化芸術に親しみことができるよう、文化芸術を鑑賞したり、体験したりする学習機会を提供するとともに、市民自らが活躍できる場をつくるなど、市民の文化芸術活動を促進します。

【主な取組】

No.	48	担当課	スポーツ推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
プレゴールデンエイジ育成事業				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 5歳から8歳頃までの「プレゴールデンエイジ」と呼ばれる子どもを対象に、「走る、跳ぶ、投げる」といった基本動作ができる「運動遊びプログラム」を、スポーツ団体の協力を得ながら、モデル事業として実施する。</p> <p>■内容 ○「運動遊びプログラム」モデル事業の実施</p> <p>■方向性 本格実施に向けて、事業の内容の見直し、拡充を図っていく必要がある。</p>				

No.	49	担当課	スポーツ振興課	計画策定の視点
取組名【事業名】			スポーツ・レクリエーションの推進	ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 年齢や性別にかかわらず、生きがいづくりなど、それぞれの目的に応じて、スポーツに親しむ機会を提供する。</p> <p>■内容 ○ぶら・スポフェスタ ○パンボン大会 ○K I Z U N A リレーマラソン ○市民大会（競技団体）助成事業 ○地区レクリエーション大会助成事業</p> <p>■方向性 多くの市民がスポーツやレクリエーションに参加する機会を創出することができることから、引き続き実施する。</p>				

No.	50	担当課	スポーツ振興課	計画策定の視点
取組名【事業名】			スポーツ少年団の活動支援	ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 子どもがスポーツに親しむ習慣を身に付ける上で重要な役割を果たしているスポーツ少年団に対し、活動場所の確保や団員増加を図るための支援を推進する。</p> <p>■内容 ○スポーツ少年団本部の運営支援 ○活動場所の確保（スポーツ施設の使用料免除、学校体育施設開放）</p> <p>■方向性 対象者（子ども）の減少により、団員数も減少している。また、小学校の統廃合により団数も減少が見込まれ、スポーツ少年団の統合や競技種目数を確保することについて検討する必要がある。 中学校部活動の地域移行により、中学生団員数の増加が見込まれることから、中学生団員への指導や活動場所の確保についても併せて検討していく必要がある。</p>				

No.	51	担当課	スポーツ振興課	計画策定の視点
取組名【事業名】 総合型地域スポーツクラブの活動支援				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 総合型地域スポーツクラブの自立に向けた支援、育成を行い、地域におけるスポーツの推進を図る。</p> <p>■内容 ○総合型地域スポーツクラブ運営支援事業補助</p> <p>■方向性 総合型地域スポーツクラブは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で会員数が減少している。財政の確立や指導者の確保が大きな課題となっており、多角的な支援が必要である。 中学校部活動の地域移行により、中学生会員の増加が見込まれることから、それぞれのクラブの特徴をいかして、中学生のスポーツ活動を支援できる体制を検討する必要がある。</p>				

No.	52	担当課	指導課	計画策定の視点
取組名【事業名】 部活動の段階的な地域移行				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 生徒のスポーツ等の環境について、国・県が示した改革推進期間である令和7年度末を目途に、休日における部活動を学校単位から地域単位での活動に変えていき、将来にわたり生徒がスポーツ等に継続して親しむことができる機会を確保する。</p> <p>■内容 ○部活動の段階的な地域移行の推進 ※日立市を3ブロック（北部ブロック・中部ブロック・南部ブロック）に分け、ブロックごとに1種目1団体を目安に地域移行を進める。</p> <p>■方向性 本市においては、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団の数が県内最多である。部活動の地域移行については、令和5年度から実証実験を行っている十王スポーツ文化クラブの事例（予算、人員配置等）などを参考に、検討を進める。</p>				

No.	53	担当課	文化・国際課	計画策定の視点
取組名【事業名】			文化・芸術を通じた交流・にぎわいづくり	ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的</p> <p>誰もが身近に文化・芸術に親しめる環境づくりを進め、文化・芸術事業による交流人口の拡大とにぎわい創出を図るため、多様なジャンルの文化芸能の鑑賞機会を市民に提供し、文化施設の魅力向上に取り組む。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ひたち秋祭り開催事業 ○ひたち国際大道芸開催事業 ○ヒタチスターライトイルミネーション開催事業 ○ひたち子ども芸術祭支援事業 ○吉田正記念事業 ○角記念市民ギャラリー運営事業 ○文化少年団の活動支援 <p>■方向性</p> <p>人口減少・少子高齢化に伴い、多くの文化・芸術活動団体において人材（指導者・後継者）が不足しており、次世代の担い手となる青少年の育成支援が必要となっているため、継続して各種団体への支援を行うとともに、幅広い世代に魅力を感じてもらえる事業展開や施設の在り方について検討する。</p>				

施策の柱Ⅲ 支え合い共に生きる社会を創る

1 子どもの「育ち」を支える学校・家庭・地域の連携・協働

2 地域を豊かにする学びの推進

3 学びをいかし、みんながつながる環境の充実

4 若者が活躍できる機会の充実

5 協働体制の構築

【現状と課題】

- 少子化や家族形態の変化等により、子ども同士のコミュニケーションや異なる年齢との交流が減少する中、社会性や豊かな人間性を育むために必要となる、幅広い経験や多様な人との関わりを確保するため、学校と家庭に加え、地域での学びが重要となります。
- 学校と地域の連携・協働による子どもたちの豊かな育ちの支援に関する取組の必要性は非常に高く、地域と学校による協働活動を推進するための人材養成や、人材確保のための研修の充実や利用促進に向けた情報発信が求められています。
- 生涯学習活動をより活発にするために、仕事や趣味等で身に付けた知識や技能が地域でいかされるよう、地域・社会で活躍できる人材・団体の育成に向けた活動や、地域での活動に直接つながるような支援の充実が必要となります。
- 若者が、自分が学んだり活動したりすることが、地域社会で役立つことを実感できるような活動支援を行うとともに、若者が、新しい視点や今までにない立場で発見を提供してくれる仲間として、共に活動できる環境づくりが必要です。
- 市民の多様化・高度化する学習ニーズに対応ができるよう、企業、大学、NPO団体等と連携・協働し、多様な学習機会を提供することが求められています。

【目指す5年後の姿】

- 市民は、住み慣れた地域で共に学び、地域の一員として支え合いながら、生きがいを持ち、笑顔で、様々な生涯学習活動に取り組んでいます。

【目標指標】

ひたち生き生き百年塾推進委員数（4月1日現在）

2019（R元）年度 105人 → 2028（令和10）年度 110人

地域活動（行事）に参加している人の割合

2023（R3）年度 28.9% → 2028（令和10）年度 35.0%

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合

小学生 2023（R5）年度 76.3% → 2028（令和10）年度 82.0%
中学生 2023（R5）年度 62.4% → 2028（令和10）年度 68.0%

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった学校の割合

小学校 2023（R5）年度 92.0% → 2028（令和10）年度 100.0%
中学校 2023（R5）年度 100.0% → 2028（令和10）年度 100.0%

施策の方向性 1 子どもの「育ち」を支える学校・家庭・地域の連携・協働

全ての保護者が、子育ての喜びを実感しながら、子どもの発達段階に応じた子育てや教育ができるよう、様々なニーズに対応した学習や体験の機会、保護者同士が交流・情報交換できるような場を提供します。

地域社会との様々な関わりを通して、子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行う地域学校協働活動を推進し、社会に開かれた教育課程の実現や学校・家庭・地域の連携を進めます。

【主な取組】

No.	54	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ
地域学校協働活動の推進				S D G s
				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 学校と地域が協働した組織的かつ継続的な体制を確立し、本市における子ども育成環境の充実を図る。</p> <p>■内容 ○地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の育成 ○他市町村事例の紹介 ○地域学校協働活動推進員活動の支援</p> <p>■方向性 本市ならではの地域力をいかし、学校運営協議会において学校と地域の関わりについて活発な議論が行われるよう、学校運営協議会の支援を含め、本活動が有意義となる体制の確立が必要である。</p>				

No.	55	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】 家庭教育の推進				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 子育て世代が安心感と自信を持って家庭教育を施すことができるよう、家庭教育の大切さを啓発するとともに、学びの機会を提供するなど、家庭の教育力の向上を図る。</p> <p>■内容 ○家庭教育に関する学校サポート事業</p> <p>■方向性 家族形態の多様化、共働き家庭等の増加により、子育て環境は大きく変化しており、子どもの健やかな成長のため、地域や行政が支援を行う。</p>				

No.	56	担当課	指導課	計画策定の視点
取組名【事業名】 学校運営協議会制度の推進				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 小・中・義務・特別支援学校全 40 校に学校運営協議会を設置することで、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者及び地域住民等による学校運営への支援・協力を推進することにより、学校と保護者、地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や児童生徒の健全育成を図る。</p> <p>■内容 ○学校運営協議会の実施（各学校年 3 回）</p> <p>■方向性 子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを構築している学校運営協議会がある一方で、学校の運営方針を追認することで手一杯の学校運営協議会もある。今後、学校運営協議会の仕組みを更に深め、地域の中の学校として、学校の活性化を図る。</p>				

No.	57	担当課	記念図書館	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
乳幼児から本に親しむ機会の提供				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的</p> <p>ブックスタート事業による絵本を通して乳幼児と保護者の触れ合いを深めるきっかけづくりを支援する。</p> <p>また、乳幼児の感性や言葉を育む上で大切な読み聞かせを行い、乳幼児期から本に出合える環境づくりと子育て情報の提供などによる子育て支援の充実を図る。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアとの協働によるブックスタート事業の推進 ○乳幼児向けおはなし会の実施 ○「親のための読み聞かせ講習会」の実施 ○子育て支援コーナーにおける子育て支援情報の提供 <p>■方向性</p> <p>保育園・幼稚園などにおいて、入園前の子を持つ保護者に対し、親子での読書や図書館利用を勧めるとともに、本市の子育て支援情報についても広報に努める。</p>				

No.	58	担当課	記念図書館・多賀図書館	計画策定の視点
取組名【事業名】				ライフステージ S D G s
子ども読書活動の推進				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的</p> <p>「子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭・学校・地域・図書館が連携して、子どもの読書力を高め、確かな学力と豊かな心を持った子どもの育成を図る。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児から児童を対象としたおはなし会の実施 ○子ども読書活動推進アドバイザーによる学校訪問、ボランティア育成研修会の実施 ○小学1年生への利用カード作成・登録の推進や、「図書館ポイント大作戦!」、「本を読んで絵をかこう展」などの行事による図書館利用促進 ○発達段階に応じた「図書館がすすめるこどもの本」等のリストの作成及び配布 ○小学校・幼稚園・保育園等への図書館職員の出張読み聞かせなどの実施 ○学校支援図書、団体配本・貸出、授業用搬送、巡回図書搬送などによる小・中学校等での読書活動推進 ○新1年生へのランドセル配布に併せ、児童書を贈るセカンドブック事業の実施検討 ○文化交流イベント（子ども向けイベント）の実施検討 <p>■方向性</p> <p>図書館の利用促進と、図書の紹介や読み聞かせという二つの方向から、本が身近にある環境をつくり、読書活動の推進を図る。</p>				

No.	59	担当課	女性若者支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】 地域わんぱく隊の活動支援				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 野外活動や生活体験などを通して子どもたちの「生きる力」を育むため、コミュニティなどの事業実施団体の支援を行う。</p> <p>■内容 ○野外活動や生活体験などの活動経費の一部補助 ○ボーイスカウト及びガールスカウトと連携した野外体験事業の支援</p> <p>■方向性 高齢化による運営スタッフの不足や活動拠点の確保が難しい地域もあるが、今後も支援を継続し、子どもたちの「生きる力」の向上を図る。</p>				

No.	60	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 プレパママの子育てスクールの実施				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 健康教育により、夫婦での育児力を高める正しい知識の普及、育児の不安軽減、児童虐待予防を図る。</p> <p>■内容 ○初妊婦とその夫を対象に、出産・育児の夫婦協力、夫婦間の相互理解を深める学びを提供する。 ○妊娠・出産についての知識や実用的な情報を提供する。</p> <p>■方向性 参加者ニーズ等の変化により、教育内容の見直し等をしていく必要がある。</p>				

No.	61	担当課	健康づくり推進課	計画策定の視点
取組名【事業名】 「0歳児の広場」の実施				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 育児不安を軽減するとともに、正しい知識の普及による育児力の向上、児童虐待の予防を図る。</p> <p>■内容 ○0歳の子と保護者を対象に、親子ふれあいの場及び親同士の交流の場を提供するとともに、専門職による各種相談（育児相談、栄養相談、歯科相談）を実施する。</p> <p>■方向性 参加者の子育てに対する考え方や価値観に寄り添いながら、教育内容や支援を検討する必要がある。</p>				

No.	62	担当課	子育て支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】 子どもすくすくセンターの運営				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 子育てに不安や負担感を抱いている母親等の子育てを支援する施設として親子交流の場の提供、子育て相談等を実施し、子育て環境の整備推進を図る。</p> <p>■内容 ○親子交流の場の提供、子育て相談、子育て情報の収集及び発信</p> <p>■方向性 本市は「企業城下町」であり、「仕事」を理由とする転入が多い点から、親族等からの支援を受けることができない子育て世帯が多く存在していると推測できるため、子育ての支援施設として、事業を継続していく必要性が高い。</p>				

No.	63	担当課	子育て支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】 地域の子ども・子育て支援の充実				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 子どもの広場の定期的な開催により、親子の交流や育児相談の場を提供し、安心して子育てができる環境の整備を図る。</p> <p>■内容 ○子どもの広場の運営委託（委託先：日立社会福祉協議会）</p> <p>■方向性 子育て中の保護者の不安感や孤立感に寄り添った、きめ細やかな相談体制の充実など、子育て環境の更なる整備推進を図る必要がある。 また、利用時の満足度を上げるような取組をより一層進めていく必要がある。</p>				

施策の方向性 2 地域を豊かにする学びの推進

市民が主体的に地域に向き合い、課題解決等に向けて多様な人々と関わり合いながら行動できる仕組みづくりを推進します。

市民の主体的な取組により、生涯学習のまちづくりを進めることができるよう、専門的知識を持つリーダーを始め、地域や団体活動のリーダー、ボランティアとなる人材の育成や新たな人材の発掘を図ります。

【主な取組】

No.	64	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】 ラジオ体操の普及				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 「郷土の宝」であるラジオ体操の認知度向上及び普及に取り組み、郷土愛を育むとともに、日常生活に取り入れ、市民の生活習慣の改善、健康増進を図る。</p> <p>■内容 ○日立市長杯ラジオ体操コンクールの実施 ○日立市一斉ラジオ体操 ○ラジオ体操スタンプ帳やアプリを活用したラジオ体操の年間取組日数の増加</p> <p>■方向性 「ラジオ体操のまち・ひたち」をPRするために、日立市長杯ラジオ体操コンクールを全国規模の大会に成長させる必要がある。</p>				

No.	65	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】 働き世代の休日講座の実施				ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 働き世代を対象に、各自が抱えている漠然とした不安の解消や将来に向けた備え、スキルアップにつなげるため、今知っておくべき身近な法律や資産管理、デジタル化への対応などについて学ぶ機会を提供する。</p> <p>■内容 ○30代から60代で働いている方を対象に休日講座の実施（2回連続講座×2回/年）</p> <p>■方向性 職業人生の長期化、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）の進化など、変化の激しい社会を生きていくためには、働き世代（30代から60代）が、社会で求められる能力を身に付けるとともに、人間関係を潤滑にするコミュニケーション力の向上、また、将来に備えた知識の習得が必要となっている。</p>				

No.	66	担当課	指導課	計画策定の視点	
取組名【事業名】				ライフステージ	S D G s
外国人児童生徒に対する学校生活支援				デジタル化	リカレント教育
<p>■目的 グローバル化の急速な進展等により、日立市に居住する外国人は年々増加しており、学校においては日本語が理解できない児童生徒への対応が急務である。また、保護者への必要な情報の伝達や、緊急時の対応・連絡も課題である。</p> <p>学校受入れ時に、意思疎通を図れる程度の会話力を身に付けさせることや、学校に慣れるための準備等が必要であることから、従来の通訳ボランティアの配置等による支援策に加え、受入れ体制について検討する。</p>					
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通訳ボランティアの配置 ○各種支援団体との連携 					
<p>■方向性</p> <p>外国人児童生徒に係る情勢を注視しながら、臨機応変に対応を検討していく必要がある。</p> <p>行政、各種支援団体、学校等によるネットワークの構築が必要である。</p>					

施策の方向性 3 学びをいかし、みんながつながる環境の充実

市民一人一人が生涯にわたって学び、その学びを地域でいかす「学びと活動の循環」を形成できるよう、学習活動を通して身に付けた知識、技術、経験等の成果を発表する機会や成果をいかせる場の充実を図ります。

【主な取組】

No.	67	担当課	生涯学習課	計画策定の視点
取組名【事業名】		ひたち生き生き百年塾の活動支援		ライフステージ S D G s
				デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 市民が主体となって生涯学習に取り組む環境の充実を図るため、「ひたち生き生き百年塾」の活動を支援し、市民の学びの機会や学びの成果を活用する機会を提供する。</p> <p>■内容 ○ひたち生き生き百年塾推進本部の活動支援</p> <p>■方向性 ひたち生き生き百年塾の活動は、高齢者や児童を対象としたものが多いが、働き世代を対象としたものが少ない。働き世代のリカレント教育に寄与できるよう、対象となる講座等を増やす必要がある。</p>				

施策の方向性 4 若者が活躍できる機会の充実

若者が、自分らしく生き生きと成長できるよう、自主的な活動を応援します。

また、若者が生涯学習活動を通じて、活躍できる機会の充実を図ります。

【主な取組】

No.	68	担当課	指導課	計画策定の視点
取組名【事業名】		地元大学との連携による教育ボランティアの活用		ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 主に地元大学（茨城キリスト教大学、茨城大学、常磐大学）の学生が教育ボランティアとして小中学校等で活動することにより、児童生徒等の健全な教育に寄与するとともに、教育ボランティアの経験と見識を高める。</p> <p>■内容 ○教育ボランティアが学校で活動するための支援</p> <p>■方向性 学生が授業の補助のほか、子どもたちの遊び相手など、各学校の希望に応じて活動することで、多忙な学校現場の支援となる。また、学生の経験と見識を深める機会になるとともに、教員のなり手不足の対策としての効果も期待できるため、継続して実施する。</p>				

No.	69	担当課	女性若者支援課	計画策定の視点
取組名【事業名】		若者のチャレンジ応援		ライフステージ S D G s デジタル化 リカレント教育
<p>■目的 ひたち若者ががやきプランに基づき、課題解決、まちの魅力づくりなどの各種取組を、若者のアイデアで実践できる環境を維持し、様々なチャレンジを応援する。</p> <p>■内容 ○若者活躍応援補助事業 ○若者資格取得支援補助事業 ○高校生応援事業</p> <p>■方向性 若者世代を応援する様々な取組や環境づくりが進みつつあり、まちの魅力づくりや課題解決に対する取組に、多くの若者が関わる機会が増え、若者同士のネットワークも構築され、多種多様な交流機会が創出され始めている。 今後は、若者世代への積極的な情報発信などを通じて、より一層の若者チャレンジに対する応援体制を確立する。</p>				

施策の方向性 5 協働体制の構築

企業、大学、NPO団体等との連携により、市民の多様なニーズに対応した気軽に学べる機会を提供します。

また、市民主体のボランティア活動や市民活動への支援を行うとともに、ボランティア活動などに参加したくなる仕組みづくりを進めます。

【主な取組】

No.	70	担当課	生涯学習課	計画策定の視点	
取組名【事業名】				ライフステージ	S D G s
学習機会提供のための関係団体との連携				デジタル化	リカレント教育
<p>■目的 社会教育委員会議を設置し、社会教育に関する助言を得ながら、本市社会教育の振興を図る。また、充実した学習機会を提供するため、県北生涯学習センターやコミュニティ単会、NPOとの連携を推進する。</p> <p>■内容 ○社会教育委員会議の実施 ○コミュニティ単会との情報交換、連携講座の実施 ○県北生涯学習センター運営に対する意見具申</p> <p>■方向性 本市における生涯学習の課題や問題に対して、市民の代表として解決のための方向性を検討するとともに、地域、市、県などの役割を明確にしながら、関係団体や関係機関とのネットワークを構築し、連携体制の強化を図る。</p>					

No.	71	担当課	指導課	計画策定の視点	
取組名【事業名】				ライフステージ	S D G s
科学学習の推進				デジタル化	リカレント教育
<p>■目的</p> <p>子どもたちの科学への興味・関心を高めるため、各小中学校において、専門性の高い地域人材を活用し、学校の教育活動全体で科学学習の内容充実を図り、ひたちらしい教育を推進する。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校における「理科室のおじさん」事業の実施 各小学校に週2回「理科室のおじさん」を派遣し、理科の授業支援や実験準備等を行う。 ○小中学校における授業支援の実施 理科の授業において、自作の実験教材などを活用し、教育内容に応じた支援を行う。 ○理数アカデミー(小6～中2)等の実施 意欲のある小中学生を対象に、ハイレベルな実験や授業、研究発表等を行う場を提供する。 ○科学ふしぎ発見教室の実施 身近な素材で水ロケットやレーシングカーを作る教室や大会の開催等により、科学の楽しさや不思議さを体験する機会を提供する。 <p>■方向性</p> <p>ものづくりのまちである本市の「ひたちらしい」教育であり、今後も継続が必要である。</p>					

第5章

参考資料

1 計画策定経過

2 策定委員会

- (1) 委員名簿
- (2) 設置要領

3 目標指標一覧

4 主な取組一覧

5 意見聴取の結果